

【連年修正申告の処理方法】

1. ケースの状況

当期が令和N年3月期の3月決算法人が、前々期(令和N-2年)と前期(令和N-1年)の過去2期分の連年修正申告を行うケースとします。

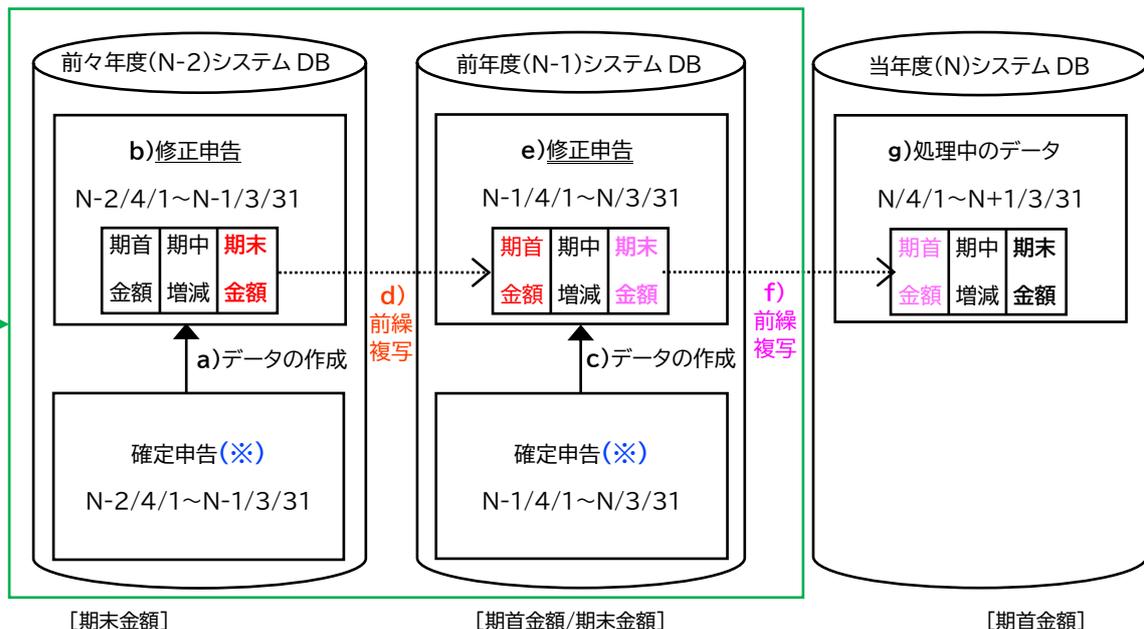
2. 処理イメージと処理方法

(1) 処理イメージ

a)からg)の順番に処理を行います。

期	前々期(2期前)	前期	当期
システム	前々年度版 (令和N-2年度版)	前年度版 (令和N-1年度版)	当年度版 (令和N年度版)
事業年度	N-2/4/1~N-1/3/31	N-1/4/1~N/3/31	N/4/1~N+1/3/31
処理フロー	データの作成 (元)作成元(※) (先)作成先	a) N-2 修正申告の作成 (元)N-2 確定申告(※) (先)N-2 修正申告	c) N-1 修正申告の作成 (元)N-1 確定申告(※) (先)N-1 修正申告
	前期繰越金額の 複写 (元)複写元 (先)複写先	d) N-1 修正申告への複写 (元)N-2 修正申告 (先)N-1 修正申告	f) N 処理中のデータへの複写 (元)N-1 修正申告 (先)N 処理中のデータ
	データの処理	b) N-2 修正申告の処理	e) 複写履歴の確認と N-1 修正申告の処理
備考		前繰複写時は、複写先のシステム 年度(令和N-1年度版)を選択	前繰複写時は、複写先のシステム 年度(令和N年度版)を選択

(※)データの作成の作成元に修正申告が存在する場合は、作成元は確定申告ではなく、最新の修正申告を指定します。



確定申告	100	確定申告	100/110	処理中のデータ	110
↓ a)データの作成		↓ c)データの作成		→ g)処理中のデータ(再複写後)	130
修正申告(作成直後)	100	修正申告(作成直後)	100/110		
b)修正申告(処理後)	120	→ d)前繰複写 →	修正申告(再複写後) 120/110		
		e)修正申告(処理後)	120/130	→ f)前繰複写 →	

(2) 処理方法

① 前々期(2期前)の処理 ※令和 N-2 年度版

1) 修正申告の作成

前々年度版(令和 N-2 年度版)の修正申告を、データの作成で作成します。 ※a)データの作成

2) 修正申告の処理

前々年度版(令和 N-2 年度版)の修正申告の処理を行います。 ※b)修正申告

② 前期の処理 ※令和 N-1年度版

※前期繰越金額の複写を行う前に、複写先の前期(令和 N-1 年度版)の修正申告の作成が必要になる点にご留意ください。

1) 修正申告の作成

前年度版(令和 N-1 年度版)の修正申告を、データの作成で作成します。 ※c)データの作成

2) 前期繰越金額の複写

前々年度版(令和 N-2 年度版)の修正申告を複写元とし、前年度版(令和 N-1 年度版)の修正申告を複写先として、前期繰越金額の複写を行います。 ※d)前繰複写

3) 前期繰越金額の複写履歴の確認と修正申告の処理

前年度版(令和 N-1 年度版)の修正申告に対する前期繰越金額の複写履歴の確認を行い、前年度版(令和 N-1 年度版)の修正申告の処理を行います。 ※e)修正申告

③ 当期の処理 ※令和 N 年度版

※過年度(前々期と前期)の連年修正申告の処理を終えたら、最後に当年度の処理中のデータへ前期より前期繰越金額の複写が必要です。忘れないようご注意ください。

1) 前期繰越金額の複写

前年度版(令和 N-1 年度版)の修正申告を複写元とし、当年度版(令和 N 年度版)の処理中のデータを複写先として、前期繰越金額の複写を行います。 ※f)前繰複写

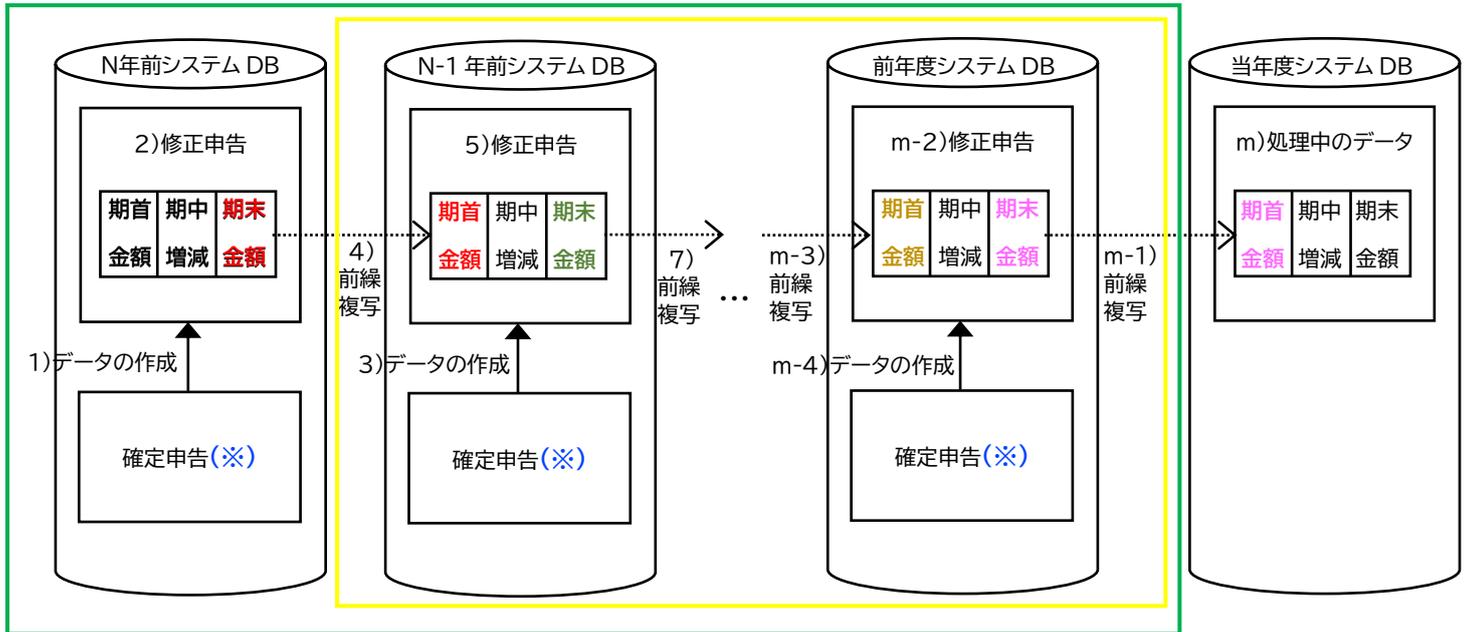
2) 前期繰越金額の複写履歴の確認

当年度版(令和 N 年度版)の処理中のデータで、前期繰越金額の複写履歴の確認を行います。

※g)処理中のデータ

【ご参考】過去 3 期以上の連年修正申告の場合

過去3期以上の連年修正申告では、上記の過去 2 期連続で修正申告を行うケースの前期の処理が、複数回(黄枠)行われる以下のイメージとなります。(N 期連続の修正申告の場合、黄枠は N-1 回となります。)



(※) データの作成の作成元に修正申告が存在する場合は、作成元は確定申告ではなく、最新の修正申告を指定します。

以上